



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.9

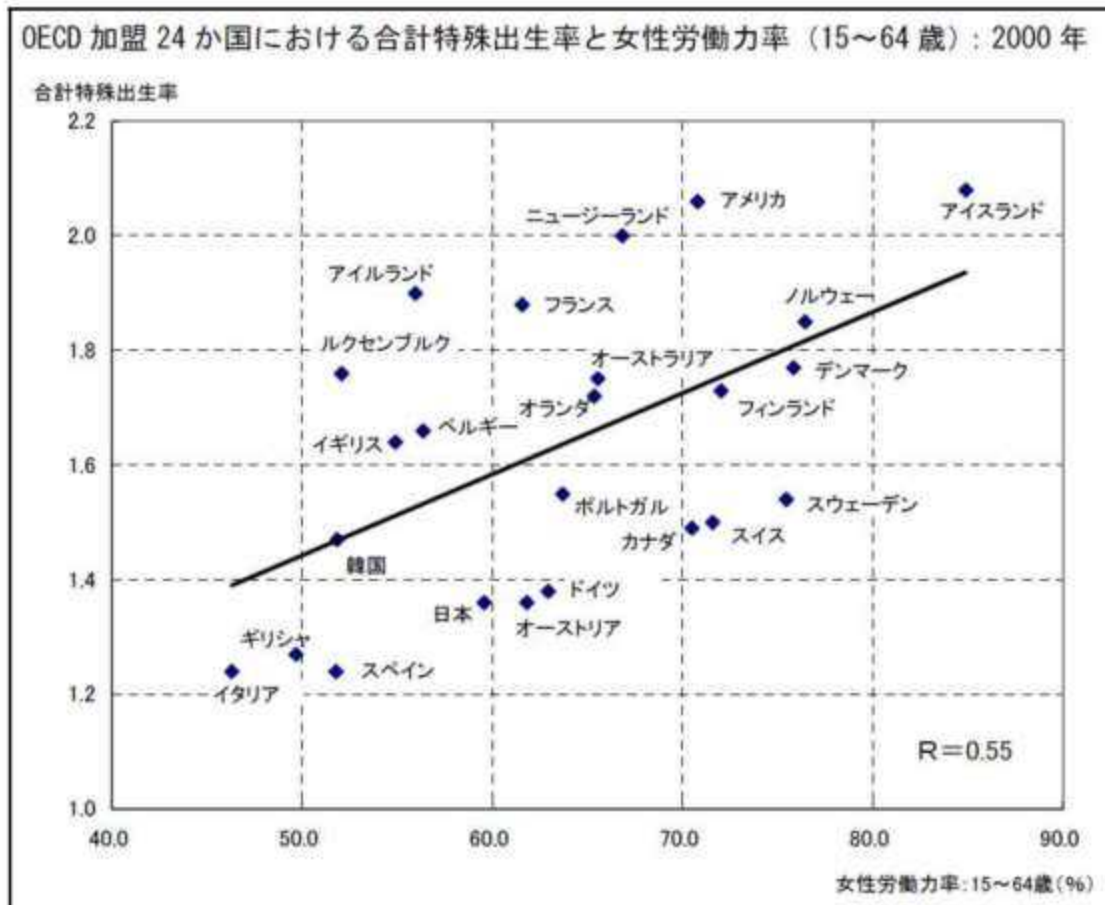
少子化の原因と対策を考えよう

一般に、少子化の背景(原因)として挙げられる社会事象として、①女性の社会進出が進んだ、②晩婚化・非婚化、③仕事と育児の両立が困難、④核家族化の進行があるとされている。たとえば、『ビジュアル公民』p.16でも同じように解説されている。

しかし、それらが本当に少子化の原因と言えるのだろうか。内閣府が発表している統計資料やグラフから読み取れることと照らし合わせて考えてみよう。

なお、晩婚化・非婚化については、『ビジュアル公民』p.16の資料を参照しよう。

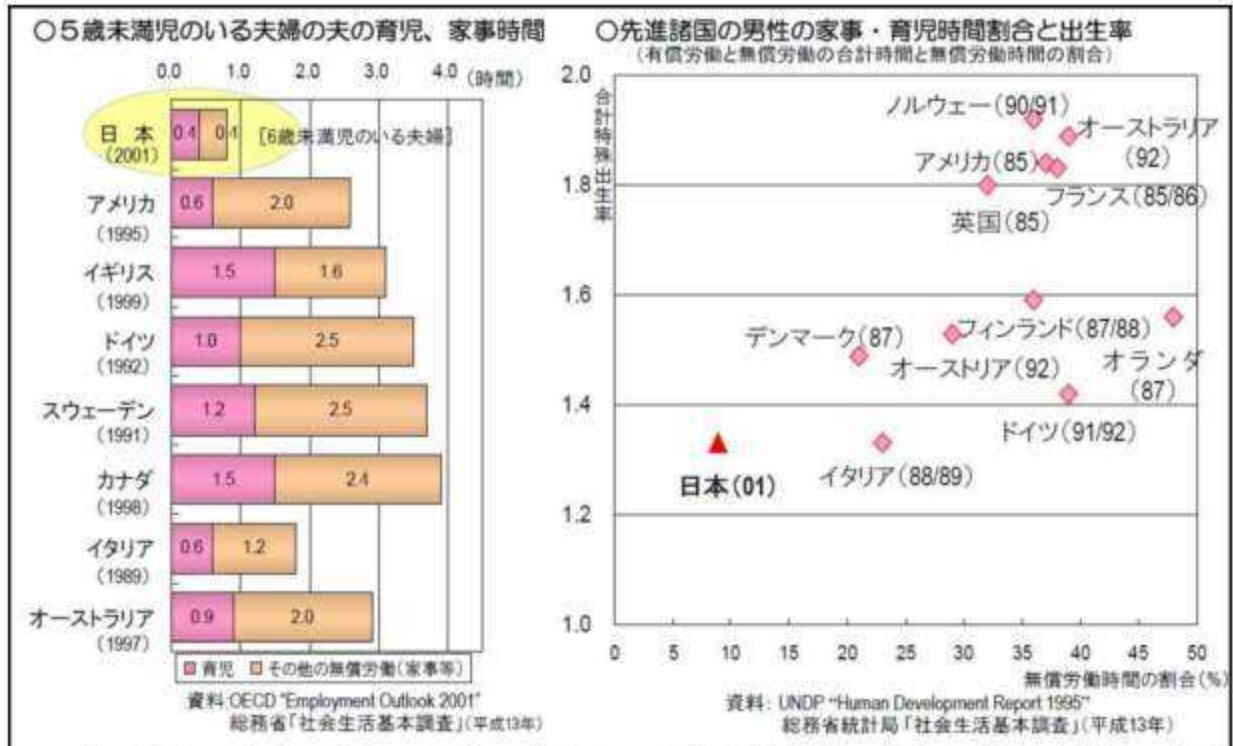
(1) 女性の社会進出は、少子化を必然的に招くか



上のグラフは、女性の就業率と出生率の関係をまとめたものである。日本よりも女性の就業率が高いのに、日本よりも合計特殊出生率が高い国はどれくらいあるのだろうか。日本より合計特殊出生率が低い国で、日本より女性の就業率が高い国はどれくらいあるのだろうか。

どうして、女性が社会進出する国で、合計特殊出生率の高い国があるのだろうか。

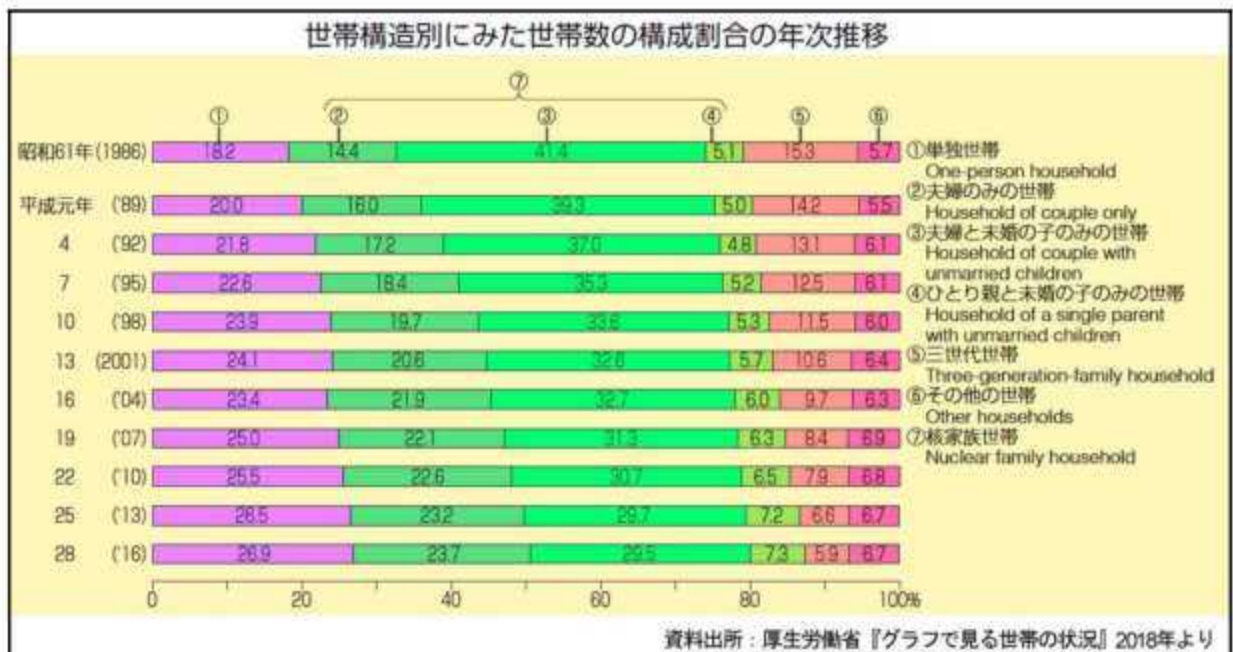
(2) 男性の家事・育児時間と合計特殊出生率の関係



日本の男性の家事や育児にかかる時間は、世界でも最低の水準。また、男性の家事・育児時間が短いと、合計特殊出生率が低いことも外国と比較すると見えてくる。

先進国の男性と比べて、日本の男性の家事・育児時間が、なぜ短いのだろうか。男性の意識の問題であろうか。ヒント:「過労死」は「karoshi」と英語になっている。

(3) 核家族化は進んでいるのか



核家族とは、夫婦だけか、親と未婚の子どもからなる家族のことを言う。子育ての関係で考えると、核家族化が進行しているのなら、上のグラフでは③と④の家族が増加しているはずである。1986年で最も多い家族形態は③の家族が41.4%だった。

では、2016年で増加率の多い家族形態は何と何か。②の家族が増えた理由は何か。